

GPS浮子 流向・流速試験データ

「GNSS等を用いた洪水流の観測システム:GPS浮子」採択

経済産業省関東経済産業局、国土交通省関東地方整備局および中小企業基盤整備機構関東本部が進める「第1回コンストラクション オープンイノベーションマッチング」に参加し、161社331件の応募の中から現場実証に向けたマッチング案件32件のうちのひとつとして、GPSラジオゾンデ技術を応用した「GNSS等を用いた洪水流の観測システム:GPS浮子」が採択されました。

現在、河川の流速は、浮子を投げ入れ、2点間の到達時間から算出しています。このGPS浮子は、GPS測位情報などから流向・流速を自動で計測する革新的技術であり、今後河川事務所との共同実証を経て製品化を目指しています。

※GNSS(Global Navigation Satellite System/全球測位衛星システム)

米国のGPS、日本の準天頂衛星(QZSS)、ロシアのGLONASS、欧州連合のGalileo等の衛星測位システムの総称

※国土交通省の実証プログラム

https://www.kanto.meti.go.jp/annai/hodo/data/20200930construction_press.pdf

(担当:気象防災事業部)



ビデオゾンデ放球試験

日本気象学会 2020年度秋季大会に参加

10月25日～31日、オンラインで開催された日本気象学会2020年度秋季大会に参加し、2件の論文発表を行いました。

「雲/降水粒子撮像装置ビデオゾンデの1680MHz帯実験局から400MHz帯気象援助局への移行技術の研究開発」の成果について

「戦略的情報通信研究開発推進事業」の支援を受けて実施中の「雲/降水粒子撮像装置ビデオゾンデの1680MHz帯実験局から400MHz帯気象援助局への移行技術の研究開発」の成果について発表を行いました。

この研究は、2019年度から2021年度の3カ年で実施しています。その中間発表として、新しく設計された雲/降水粒子撮像装置ビデオゾンデの性能などを説明し、気象学会関係者から将来の製品化に向けて期待するコメントを多数いただきました。

来年度、国内のさまざまな場所で雲・降水に関連する試験観測を実施する予定です。

GPM/DPRとPOTEKA地上稠密気象観測との降水量観測比較

「宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来」をテーマとする気象衛星の専門分科会で、GPM/DPR(全球降水観測計画/二周波降水レーダ)とPOTEKAの地上稠密気象観測による降水量データとの相関を分析した結果を発表しました。目覚ましい発展を続ける衛星レーダーのリモートセンシング技術ですが、その観測精度を高く維持するためには、地上の真値であるグラントゥールスによる校正/検証が不可欠です。

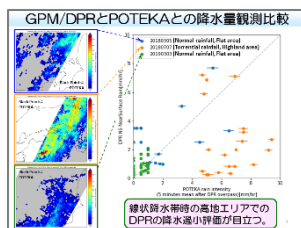
衛星レーダーの研究者の方々に、グラントゥールスに比較的近いとされる地上観測器による気象観測の大切さを、改めてご認識いただく良い機会となりました。

当社は、これからもさまざまな分野の気象観測技術の発展に貢献していきます。

※グラントゥールス:リモートセンシングで得られる画像データから対象物を判読する場合の、その代表的な対象物の実際の地上のデータ

(担当:気象防災事業部)

【文中:敬称略】



発表資料より

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。